

特別支援教育だより⑨

特別支援教育コーディネーター

<字がうまく書けない>

ひらがなやかたかな、漢字が正しく書けない、ますや行におさめて書くことができないなど、字を書くことが極端に苦手な子どもがいます。

文字を書くにはいくつかのプロセスがあります。

- 書こうとする文字を思い出す（見る）。
- 正しい筆順を思い出す。
- ますや行の、文字を書く位置を確認する。
- 筆記用具を手で操作して書く。

（目と手の協応運動）

- 線や点の位置、とめ、はね、はらいなどの細部に注意して書く。
- 全体のバランスをとりながら書く。
- 常に自分の書いた線や点を脳にフィードバックさせ、次の線や点をどの位置に書くか考える。

発達障がいの子などは、記憶や動作のどこかの過程でつまずきがあり、文字を正しく、バランス良く書くことに困難が生じてしまいます。

字を書くことが苦手な子のパターン

<p>漢字が正確に書けない</p> <ul style="list-style-type: none"> × 赤組 → ○ 赤組 × 冷たい → ○ 冷たい × 放送 → ○ 放送 × 新文紙 → ○ 新聞紙 × 画洋紙 → ○ 画用紙 <p>鉛筆の持ち方や動かし方が ぎこちない</p>	<p>ひらがなやカタカナの 細部が正しく書けない</p> <ul style="list-style-type: none"> × ほ → ○ ほ × ま → ○ ま × ル → ○ ル × モ → ○ モ ア ← ? → マ ユ ← ? → コ <p>マスや行におさまるように 書けない</p>
---	--

このような困難を改善するには、子どものつまずきがどこにあるのかを把握し、そのつまずきを補うような指導を行い、子ども自身が練習を重ねていく必要があります。

いろいろな練習用シートを準備する

さまざまな練習用シートを作成する。マスに補助線を入れると、偏とつくりのバランスがとりやすくなる。補助線の数は少しずつ減らしていき、自分でバランスがとれるようにしていくとよい

見本	見本
書	文
読	字
練	文
習	字

<ポイント>

- あわてずゆっくり書かせる。時間を長めにとる。
- 以前に習った漢字でも、ときどき書き順を確認する。（クラス全体で）
- やや大きめのますや広めの行のノートを使わせる。（補助線のあるものを使うと漢字の偏とつくりのバランスがとりやすい。）
- 文字の構造を認識させると覚えやすい。（漢字のパーツパズル、間違い探し…など）

<注意>

- 一般的な反復練習を積み重ねても、あまり上達しない子もいる。その子に適した練習方法を見つけることが大事。

家庭では…

文字を書くのが苦手な子にとって、書き取りの宿題は大きな負担になります。できるだけ親がそばについて、子どもが困ったときに助言をしてあげると、子どもは取り組みやすくなります。あまり厳しく指導しすぎるとストレスになるので、助言はほどほどにして、うまくできた部分をほめてあげると自信がもてます。

また、文字を書くことが楽しいと思える機会をつくると、文字に親しみが持てます。仲のよい友達にカードを書いたり、親戚にはがきを送ったりするのも良い取り組みです。多少の間違いは気にせず、伸び伸び書かせると良いでしょう。

参考：「ケース別発達障害のある子へのサポート事例集小学校編」上野一彦・月森久江 著 ナツメ社